

令和5年度 古賀市立古賀西小学校 学校経営要綱

古賀市立古賀西小学校 校長 園 久恵

I 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基盤

① 公教育としての基盤に立つ教育

- 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の関係法規並びに学習指導要領、福岡県や古賀市の教育関係法令及び教育施策に基づいて教育を行う。

② 現代社会の要請に応える学校

- 令和の日本型教育の構築をめざし、協働的な学習、個別最適な学習に取り組む。
- 豊かな未来を創り出し、持続可能な社会の作り手となることが期待される児童に生きる力を育むことをめざし、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の資質や能力を伸ばす教育を行う。
- 生涯学習の基盤を培う観点から、学ぶ意欲と主体的に対応できる力が身に付く教育を行う。
- 人権尊重の精神を基盤に、多様性の視点に立った教育を推進する。
- 「誰一人取り残さない」社会の実現をめざす SDGs17 の目標達成につながる教育活動を展開する。

③ 児童・保護者・地域の実態に即し、願いに応える学校

- 社会に開かれた教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る教育を行う。
- 地域の自然環境・文化環境・人的環境を生かした教育を行う。
- 保護者や校区コミュニティと連携したコミュニティ・スクールを推進する。

(2) 学校の教育目標

地域を愛し、「こ・が・に・し」力を身につけた子どもの育成

■「地域を愛し」

古賀西小学校区の「ひと（自分・家族・友達・先生・地域）・こと（学校行事・地域行事）・もの（校舎・校庭・地域環境）」に尊敬と愛着を感じ、古賀西小学校区の児童であることに誇りと自信をもち、自尊感情が高まった子ども

■「こ・が・に・し」力を身につけた子どもの育成

○「こ」「心豊かな子ども」

よりよく生きていこうとする心情や豊かな人権感覚を持ち、生命の大切さや自他の存在の大切さがわかり、共に生きていこう、高め合っていこうとする思いやりの心をもち、自他を大切にしようとする子ども

○「が」「学習に主体的・協働的に励む子ども」

学校や家庭で、課題解決に向けわかるまで努力し、自分の考えを分かりやすく伝えようと表現したり互いの考えの違いやよさを認め合ったりできる子ども

○「に」「忍耐強い子ども」

学習や生活の場において、困難な事に対しても、あきらめずに目標達成に向けて最後まで責任をもって努力し、自分を律し伸ばしていこうとする子ども

○「し」「心身ともに健康な子ども」

基本的な生活習慣を身につけ、食の大切さを理解し、生命の基本である健康に留意し、健康づくり、体づくりについて主体的・積極的に取り組もうとする子ども

(3) 具体目標

① めざす学校像

○ 笑顔あふれる明るい学校にします。

- ・挨拶があふれる学校 ・安心・安全な学校
- ・教職員が働きたいと思える学校 ・掃除が行き届く気持ちのよい学校
- ・いじめや不登校の早期発見・対応を行い、明るく安心して生活できる学校

○ 学び高め合う学校にします。

- ・学ぶ意欲にあふれ、自分の考えを進んで表現する学校
- ・話をしっかりと聞き、お互いの考えを尊重する学校
- ・対話を通して考えを深め合う学校

○ 地域に根ざす学校にします。

- ・地域の「ひと・もの・こと」を活かした教育活動に取り組む学校
- ・古賀西校区コミュニティや保護者等と連携しながら、教育活動に取り組む学校

② めざす教師像

- 教師としての使命感、責任感をもち、率先垂範する教師
- 一人ひとりの児童によりそい、個の実態に即したきめ細やかな愛情をもった教師
- 自己研鑽に努め、教育実践に励む教師を目指します。
- お互いを高め合うために協働的に取り組み、同僚生を高める職員文化をつくる教師
- 保護者、地域に信頼される教師

(4) 教育課題と経営課題

① 教育課題

- 豊かな人間性の育成
 - ・豊かな人権感覚の醸成 ・自尊感情・自己有用感の向上 ・規範意識の向上
- 学びに向かう力、知識の習得、表現力の育成
 - ・学ぶ意欲と主体性の向上 ・学びの基礎力、社会的実践力の向上
- 学力低位層・上位層の学力向上
- 不登校児童の減少に向けた取り組み（自己肯定感、有用感、安心できる学校・学級）



② 経営課題

- 不祥事を生まない風通しのよい職場環境と人間関係
- キャリアステージに応じた実践的指導力の向上
- 学校経営の参画意識向上とチーム推進力の向上
- 豊かな人権感覚と率先垂範の意識 教員は、児童のモデルという自覚
- 人権教育・特別支援教育の視点に立った授業づくりと学級経営の充実と連携の強化
(特学⇔特学、特学⇔交流学級、特学⇔通常学級)
- 変化に応じた対応力と柔軟性をもった教育活動への挑戦
- ICT機器の活用による協働的な学びと個別最適な学びの実践



2 本年度の重点

(1) 本年度の重点目標

自ら気づき考え、進んでつながる子どもの育成
～そろえる つながる みとめあう～

コロナ禍の教育活動の制限により、体験的な活動や交流活動が十分できなかったことから、今後は児童相互の良好な人間関係の形成に向けて、地域のひと・もの・ことを生かした教育活動の充実を図る必要がある。そこで、全ての教育活動において、自分の気づきをもとに考え、他者と協働的にかかわることを通して、お互いのよさを実感し、考えを深め広げ、それぞれの成長をめざしていくことができるように取り組みを明確にすることが大切である。そのために、児童の実態や地域の特色を生かした教育活動の充実を図るとともに、学力の基盤となる学習規律や生活規律の定着に向けて、取り組みを「そろえ」、学年の取り組みを共有し「つながる」こと、取り組みのよさや成長を「みとめあう」ことを重点目標とし、児童も教職員も共に成長する、笑顔あふれる明るい学校をつくっていく。


(2) 重点目標指標

- ◇全国学力・学習状況調査(6年:4月実施):全国平均値より 国語+2P、算数+2P
- ◇県学力調査(5年:6月実施)
- ◇古賀市標準調査(12月実施) 前年度より、+1ポイント評定 1児童経年比較-10%
- ◇社会的実践力アンケート全項目(5月、12月実施)85ポイント以上(12月)
- ◇西っ子スタンダード全項目(6月、12月実施)85ポイント以上(12月)
- ◇授業力アンケート(6月、12月実施)85ポイント以上(12月)
- ◇不登校児童、不登校兆候児童の減少(前年度より10%減)

(3) 本年度めざす子どもの姿(なんのためにするのか、考えさせる)

- ・(知)主体的に学び、お互いの学びを深める子ども
- ・(徳)心豊かで、思いやりのある子ども
- ・(体)健康に関心をもち、進んで運動する子ども
- ・「そろえる」取り組みとして、「西っ子スタンダード」の定着をめざす。

【西っ子スタンダード】

子 思 い や り の あ る	1	「つながる」あいさつができる。	
	2	時間いっぱい・もくもく・すみずみ掃除ができる。	
	3	自分も相手もうれしくなる言葉を使うことができる。	
自 ら 学 び 賢 い 子	4	進んで読書を楽しむことができる。	
	5	話をしている人に身体を向けて聴くことができる。	
	6	自分の考えをもって、相手を意識して発表ができる。	
	7	学習の準備とせいりせいとんができる。(宿題・荷物・学習用具・くつ)	
健 や か な 子	8	こしほねを立てて学習をすることができる。	
	9	安全に気をつけて、遊んだり運動したりすることができる。	
	10	給食に感謝して、バランスよく食べることができる。	

(4) 本年度めざす教師像

- 「鍛えて・任せて・ほめて」子どもの可能性をのばす教師
 - ・児童によりそい、愛情と厳しさをもって支える教師
 - ・子どものよさを認め、可能性を伸ばそうとする教師
- チーム力を高める教師
 - ・子どもの成長を語り合い、教え合い、支え合い、互いを高め合う教師
 - ・主体的に実践力を高め、「チーム古賀西」を意識し、協働的に教育活動にあたる教師
 - ・生徒指導上の諸問題について、組織的に対応する教師
- 働き方改革を意識し、専門性を高める教師
 - ・月超過勤務時間55時間厳守、提出物厳守、定時退校日宣言、教科担任制、交換授業

(5) 重点目標達成のための基本方針

- 学年で学習規律・生活規律をそそえ、取組のよさを認め合う学年・学級集団づくり
- 働き方改革（業務改善、教師としての達成感・充実感）の推進
- 新しい時代に対応した教育（令和の日本型教育）の充実
- コロナ禍で途切れた地域の GT の保護者・地域との連携、体験活動の重視
- 安心安全な学校・学級づくり（危機管理の徹底・報連相）
- 支え合い、高め合う職員文化の創造（プラス思考のわいがや雑談）
- 子どもの主体的な特別活動の充実、委員会活動の充実



(6) 重点目標達成のための教育活動

主体的に学び、お互いの学びを深める子ども

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点からの授業改善
 - ◎ 主題研修教科を「算数科」に絞り、基礎学力の向上を図る。
（個に応じた課題設定・対話活動・主体的、協働的な学習活動の設定・振り返り活動）
 - ※ 教師が話し過ぎない、主役は子ども
 - ※ 個別最適な学習（個に応じた学習）と協働的な学習の充実
 - ※ テストで結果（伸び）を実感させる。
 - ※ 県版「授業チェックリストをもとにした授業改善」
- ② ICT 教育とプログラミング教育の推進
 - ・ ICT 機器の活用による授業改善 各学年の取り組みの共有
 - ・ 情報モラル学習の取り組みの充実
 - ・ 個別最適な学び（個の課題に応じた学習の設定・家庭学習）
- ③ 地域の「ひと・もの・こと」を生かした教育活動の実施
 - ・ SDGs の観点を学習活動に位置付ける。
 - ・ ICT を活用した生活科・総合的な学習の時間の推進 単元計画を明確にする。

6年⇒中村哲さんの思いを繋ぐ取り組み（令和4年度試作、令和5年度発行）
5年⇒松林清掃を核として、校内からSDGsを発進する。（ex:節電・節水・ゴミ減量）
4年⇒防災教育と駅前商店街の活性化
3年⇒障がい者との交流 人権の花「ひまわり」運動
1・2年⇒見守り隊・砂浜の利用 ※ 古賀市ゼロカーボンシティ宣言を意識する

※ 学習指導要領「生きる力」=本校「社会的実践力」

- ④ 家庭学習の充実
 - ・ 家庭学習でのミライシード活用（全学年） 学年ごとの取り組みを共有する。
 - ・ 反転学習 予習を取り入れた算数の授業スタイル
 - ・ 自主学習内容の充実と学年に応じた取り組み

- ⑤ 「1人100冊」運動・ブックマスター運動の推進 読書週間で学級目標の達成
- ⑥ 算数科少人数指導体制の確立と個に応じた指導を展開
- ⑦ 「古賀西小学校学びのきほん」(腰骨指導含む)の定着
- ⑧ 学年に応じた検定の実施(例:1年足し算引き算、2年九九検定、3年ローマ字など)

心豊かで、思いやりのある子ども

- ① 教科・領域や体験学習と関連させた道徳科の充実、「いのちのノート」の活用
- ② 自主的・自治的な学級づくりのため、学級活動(1)を年間15時間以上実施
- ③ 特別活動の充実(ねらいにもとづいて)・・・高学年を育てるために
委員会 クラブ活動は「自発的・自治的な活動」課題の解決に向けて、計画を立て、役割分担をし、協力して運営する。
※ 取組は、プラス面を評価する内容とする。
- ④ いじめ・不登校児童防止のための SEL-8S プログラム、校内委員会の実施
- ⑤ 縦割り活動を推進(縦割り掃除、縦割り弁当給食、縦割り遊び、落ち葉拾い等)
黙働掃除・縦割り掃除を推進)トイレ掃除・窓の棧の徹底
- ⑥ 人権教育の視点に立った授業実践(2年「排育」4年「し尿処理学習」6年「歴史授業」)
- ⑦ 生徒指導提要の改訂に伴い、指導より支援(よりそう)姿勢で対応

健康に関心を持ち、進んで運動する子ども

- ① 学年に応じた防災教育・安全教育の推進(引き渡し訓練・地震・津波による避難訓練)
カリキュラムマネジメント・年間計画の見直し・防災の授業(学習参観)
- ② ビジョントレーニング(目の運動)の実施
- ③ 体育科の授業の準備体操におけるリズムジャンプの実施
- ④ 毎月1日は、安全点検・環境更新の日(教室・廊下・昇降口・職員室等の環境の美化)

特別支援教育、特別支援委員会の充実

- ① 全ての学級においてユニバーサルデザインの環境・授業を意識する。
- ② 特別支援学級の学年会(授業枠での実施)・担当学年の学年会への参加
- ③ 特別支援委員会、通常学級に在籍する特別な配慮を要する児童への支援体制の充実
- ④ 個の教育的ニーズに応じた学年単位での学習スタイルの工夫

(7) 重点目標達成のための組織運営・職員研修・家庭、地域(コミュニティー)との連携

協働的な学年研修会・チーム推進・各プロジェクト

- ① 学年研修会の充実、学年でそろえることの徹底、学年での役割分担の明確化
※ 拡大学年研修会を実施(特学担任、指導方法改善教員等を招いて、近接学年会)
通常学級学年会になかよし学級担任を入れて行ない、児童の様子、学校行事や総合、生活などの進め方について確認する。(なかよしの学年会は、授業中1時間枠を設定する)
- ② 教科担当制や交換授業を年間20%以上の実施
※ 高学年外国語専科制、5年生副担任制(指導工夫改善担当を充てる)
- ③ 学年チーム推進研修会の計画的・効率的な実施
※ 学年で統一した指導による重点目標、学年経営の重点に向けた具体策の共有化
- ④ PDCAサイクルが機能する PL・PJ 会議の活性化

キャリアステージに応じた人材育成を図る職員研修の推進

令和 6 年度古賀市指定研究発表会(校区実践交流会)を見通した研究「算数科」

- ① メンタリング(メンターメンティー)の手法による主題研究の推進
- ② 課題追求型による一般研修の充実(人権教育、特別支援教育、命を守る研修、危機管理研修)
- ③ 業績評価と連動した自己評価表による人材育成
※(人材育成指標、人権教育育成資料、特別支援教育指標に基づいた具体目標の設定)
- ④ 自主研修の推進(糟屋区教科等研、他校の研究発表会、キャリアアップ講座、糟屋区教育論文への応募の奨励、教育懇談会)
- ⑤ 古賀中校区連絡協議会をもとに、校区で連携した人権教育の推進
(鹿部解放子ども会への参加、学人研参加、学校主体の教育懇談会の開催)
- ⑥ すなやま会(若年教諭・講師)の計画的実施(内容は管理職とも相談の上実施)

PTCA、家庭、地域(コミュニティースクール)との連携

- ① 特色ある学校行事(砂浜ムーブメント、西っ子学習発表会)を充実
PTCA 活動は、会員の減少による活動の見直しを図る。
- ② コミュニティ行事(ハマボウまつり、通学合宿、春夏秋冬の陣)の積極的な参加への働きかけ
- ③ Facebook 古賀西、学校通信、安心安全メールを活用した教育活動の発信
- ④ 挨拶運動、家読、家庭学習強化週間、親子ふれあい運動、弁当の日などをとおして、家庭と連携した生活習慣・学習習慣の確立

働き方改革の推進(業務改善と意識改革)

- ① 通常、平日の 6 時間の授業日を 1 日とする。
- ② さらなる教科担任制(学年間、近接学年間、専科制の導入)
- ③ 留守番 17:00~8:00 超過勤務時間 55 時間 定時退校日の設定と厳守
退勤時間 19:00 夏休み学校閉庁日 12~16 日
- ④ 低学年 4 時間の日を金曜日に設定し、クラブや委員会の開始時間に間に合うようにする。
- ⑤ PL 会議の時間設定を行ない、PL の負担を軽減する。
- ⑥ 給食準備時間 5 分とり、昼休みを 30 分、放課後 15 分で分散する。※ 昼休み開始時間を意識する。
- ⑦ 時制の改善(朝の時間・朝の会と朝の活動 20 分⇒西っ子朝タイム 15 分)
- ⑧ 職員の勤務時間 8:20~16:50 時制の開始は 8:25
- ⑨ 水泳学習はクロスパル古賀で実施(年間 8 時間)し、指導は専門家に任せる。
- ⑩ 職員会議年度初め、10 月、年度終わりのみ、提案は、チーム推進会議、終礼、クロム
※ クロムを見る時間の設定、記載事項のホワイトボードへのタイトル記入(大型液晶テレビでの掲示)
※ 委員会の取組みは、職員へ周知する。(終礼及びクロム)